

## 1 単元名 Sunshine English Course3 The 5 Rs to Save the Earth

## 2 単元設定の理由

## ①単元の価値

本単元では言語材料として、「It is～for 人 to 動詞の原形」「how to 動詞の原形」「ask 人 to 動詞の原形」を扱う。いずれも既習の不定詞を用いた文法であり、新たな使い方を学ぶことで「to 動詞の原形」の形を改めて確認でき、より幅広い英語表現を身に付けることができる。また、単元を通して、学習指導要領にある「書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること」をねらいとすることで、より深く本文内容を理解するとともに、音声面からまとまりのある英文を読解する力をつけていくことができる考える。また、上記の文法事項を使用したまとまりのある英文を読むことで、昨今の環境を取り巻く状況についても問題提起することができる。最終的には、日常生活の中で自分たちが環境を守るために何に取り組むことができるか考えることができる題材である。

## ②単元の構成（単元分析）

本単元ではPart1で「It is～for 人 to 動詞の原形」、Part2で「how to 動詞の原形」、Part3で「ask 人 to 動詞の原形」が新規文法事項として取り上げられている。リーディング資料は、環境問題を題材にしたものとなっている。Part1の対話文で3Rを学び、その後のセクションで新たな2つのRについて知っていく。5Rの考え方に触れ、自分たちにできることは何かを最終的に考えることができる構成となっている。また、対話文を音読することで適切な発音・抑揚・表現力を身につけることができる単元でもある。

## ③生徒の実態

（省略）

## ④指導観

指導にあたっては、文法面では学習した文法を使用したゲーム的活動を取り入れ、多くの英語を発話させたい。そして、その用法に慣れさせることで定着を図り、「書く」活動に繋げていきたい。本文の扱い方については、導入時にICT等を使い、興味を惹きつけた上で「環境問題」に関するイメージや考えを生徒たちから引き出すことで、これから学習することへの期待感を高め、英文を読むことへの抵抗感を低くしたい。また、音読・暗誦の練習にペア・グループ学習を取り入れ、周りの力を借りることで生徒が達成感を感じられるようにしていきたい。

### 3 単元目標

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】間違いを恐れずに、進んで英語でコミュニケーションをとったり、音読・暗誦練習をしようとしている。
- 【外国語表現の能力】「It is～for 人 to 動詞の原形」「how to 動詞の原形」「ask 人 to 動詞の原形」含む表現や語句の知識を利用して正しく書くことができる。
- 【外国語理解の能力】環境問題についての対話文やメール文を読み、内容を理解することができる。
- 【言語や文化についての知識・理解】「It is～for 人 to 動詞の原形」「how to 動詞の原形」「ask 人 to 動詞の原形」を含む表現の正しい語順や語法を身につけている。

### 4 単元の指導計画（全6時間）・・・評価計画は別紙

- 第一次 Program 3-1 ……2時間（本時2／2）  
第二次 Program 3-2 ……2時間  
第三次 Program 3-3 ……2時間

### 5 本時の価値

音読活動では実際に英文を口にすることで、学習した文法事項の実際の使われ方を知り、その場面に適した発音や抑揚で読むことでより深い内容理解に繋げることができる。また、単語や英文が正しく読むことは書くことにも繋がると考えられる。生徒が文法や新出語句をインプットし、実際に自分の言葉で表現をするアウトプットの形まで持っていくには、この教科書本文の音読及び暗誦を軸としたインテイク（取り込む）活動が有効であるとする。生徒自身の中に、「使うことのできる英語」を増やしていくことを目指していきたい。

### 6 本時の学び合い（課題追求）の意図

まずはペアで練習することで、個人では克服できなかった発音のつまずきを克服する。加えて、良かった点や改善点についてアドバイスをし合うことでレベルアップを図ることができる。その後、グループでの練習に発展させ、発音の精度を上げることに加えて、一定のスピードで読むことを目的とした活動を行う。ペアのときと同様に互いにアドバイスをし合うことで、読むことに自信を持たせていきたい。最終的に、ペア体形に戻り、暗誦活動を行うことで、どこまで英文が自分のものになったかを確認させたい。

### 7 本時のねらい

対話文の内容を思い浮かべながら、暗誦することができる。

### 8 基礎・基本の習得事項

- ①新規文法を含む英文の意味が理解できる。
- ②正しい英語の発音で読むことができる。

### 9 振り返りの方策

教科書本文を穴埋め式にしたシートを用いて、自分がどれだけ覚えることができたかを確認する。

|     | 学習活動   | 指導上の留意点と◇評価   |
|-----|--|---|
| 導入  | 1. 英語の歌を歌う。<br><b>Because we can.</b><br>2. 前時の学習を振り返る。<br>・新出語句の復習<br>・本文内容の確認  | ・授業の雰囲気作りを意識して元気よく歌わせる。<br>・フラッシュカードを使用し、テンポよく行う。<br>・カードを掲示して、本文のポイントをおさえる。<br>「3R」とは何か。   |
| 展開  | 3. 本時の目標を確認する。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">対話文の内容を思い浮かべながら、暗誦できる。</div>   | ・学習のめあてを示し、見通しを持たせる。  |
|     | 4. 教師の範読を聞く。<br>5. 音読練習<br><一斉><br>①Listen & repeat<br>②Repeating<br>③Shadowing<br>④Read & Look up<br><個人><br><b>Buzz reading</b><br>決められた時間で繰り返し読む。<br><ペア><br><b>【学び合いの場面】</b><br>①Repeating<br>②通訳読み<br><グループ><br><b>【学び合いの場面】</b><br>①リレー読み<br>②Read & Look up | ・本文に関するイラストを提示し、思い浮かべながら聞かせる。<br>・発音・アクセント・抑揚に注意して音読させる。<br>・読み方の方法を変えながら、限られた時間の中でできるだけ読む機会を増やす。<br>・机間巡視をし、正しい発音で読めているかをチェックする。<br>・ペア・グループ音読では、互いに良かった点・改善点をアドバイスさせる。身体の向きにも注意して音読させる。<br>◇間違いを恐れずに、音読・暗誦練習をしようとしている。<br><b>【関心・意欲・態度】</b><br><Cの生徒への手立て><br>・テキストを見ながらでも良いので最後までしっかり読み切るようにさせる。<br><Aの生徒への手立て><br>・発音・抑揚・スピードだけでなく、目線にも気をつけながら練習するよう助言する。 |
| まとめ | 7. 本時の振り返りをする。<br>8. 教師のまとめを聞く   | ・本文を穴埋めしたワークシートを使用し、どれだけ覚えたかを確認する。→ 回収<br>・具体的なめあての達成度をワークシートに記入させる。(5段階評価と記述) → 回収<br>・単元のまとめと今後の学習への展望について話す。   |